

つながれ 広がれ 笑顔の輪



時代の変化と 子どもの居場所

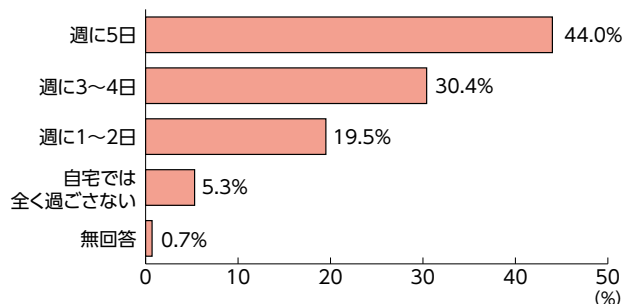
皆さんは子どもの頃、どのような場所で、どのような時間を過ごしていましたか。空き地や公園、駄菓子屋。地域の大人に見守られながら友達と遊んだ時間を思い出す人もいるのではないのでしょうか。かつては、まちの至る所に、自然と子どもたちの集まる場所がありました。しかし、今ではこうした場所に子どもたちの姿を見かけることは少なくなりました。

市が行った調査によると、「放課後などの自由な時間を自宅で過ごす日数が週3日以上」と答えた小中学生の割合は約75パーセント(図1)。4人に3人が放課後などの時間を自宅で過ごしているということが分かります。地域社会の変化に加え、安全面への意識が高まり、さまざまなルールや規制が厳しくなる中で、子どもたちは家庭や学校以外で安心して遊んだり過ごしたりできる場所を見つけることが難しくなっているようです。

孤独を感じる子どもたち

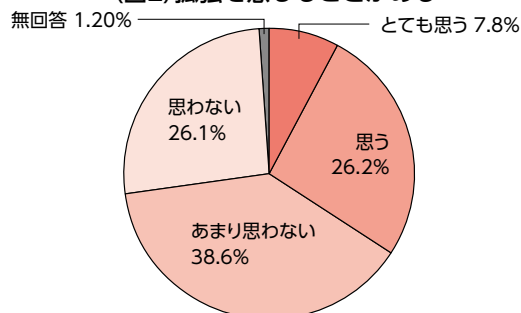
こうした居場所の減少は、子どもたちの孤独

(図1) 放課後などの自由な時間を自宅で過ごす日数



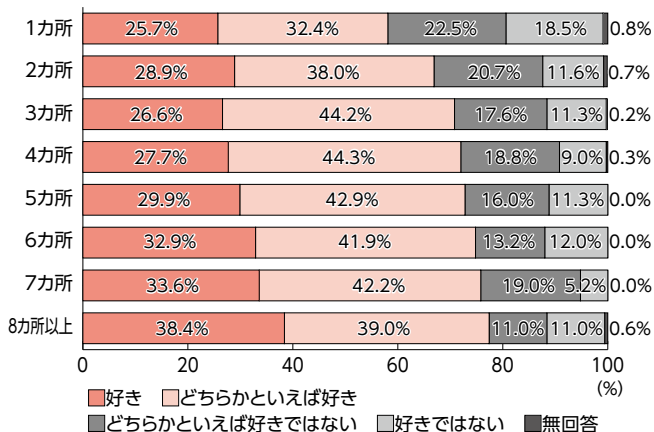
(出典) 成田市「こども計画策定のための子ども・若者意識調査(令和6年調査)」

(図2) 孤独を感じることもある



(出典) 千葉県「こどもの生活実態調査(令和6年度)」

(図3) 「ほっとできる場所の数」×「今の自分が好きか」



(出典) 成田市「こども計画策定のための子ども・若者意識調査(令和6年調査)」

* 小数点第2位以下を四捨五入しているため、グラフの数値の合計が100%にならない場合があります。



全ての子どもに 安心できる居場所を

や孤立を生み出す一因となります。県が行った調査によると、孤独を感じることがあると答えた小学生の割合は30パーセントを超えています(図2)。家庭や学校で悩みを抱えている子どもたちにとって、気軽に相談できる大人が身近にいないことは、心の負担をさらに大きくしてしまいかもしれません。また、孤独や孤立は誰かと関わる中で自分の存在をありのまま受け入れてもらったり、支援を受けたりすることから遠ざけてしまい、自分を肯定的に捉える力を低下させてしまうことも考えられます。

一方で、市が行った調査では、家庭や学校以外に「居場所」が多い子どもほど、自己肯定感が高いという結果が示されています(図3)。家庭や学校以外でのさまざまな人とのつながりは「自分は一人ではない」「自分を受け入れてくれる人がいる」という安心感を育みます。安心して過ごせる場所があれば、子どもたちは自分らしさを発揮し、遊びや学びに挑戦することができ、それらの経験は、子どもたちの精神的な健康や成長を支える基盤となるのではないのでしょうか。

市内には、地域の大人たちが支えるさまざまな子どもの居場所があります。今回の特集では、「子どもたちが安心して過ごせる場所を作りたい」「悩みに寄り添いたい」といった思いを持つ人々の取り組みに焦点を当て、子どもたちにとっての「居場所」とは何か、そしてその大切さについて探っていきます。

子どもたちの「居場所」って？



地域のつながりが薄れる中で、子どもたちが安心して過ごせる場所が少なくなっています。そのような中、子どもたちが望む「居場所」とはどのようなものでしょうか。

減りゆく地域の 見守りの目

子どもを取り巻く環境は、時代とともに変化しています。家庭に目を向けると、子どもたちが自宅で過ごす時間が増加している中で、共働き世帯も増えていきます。国勢調査によれば、共働き世帯の割合は10年で約8ポイント増加しています(左図)。

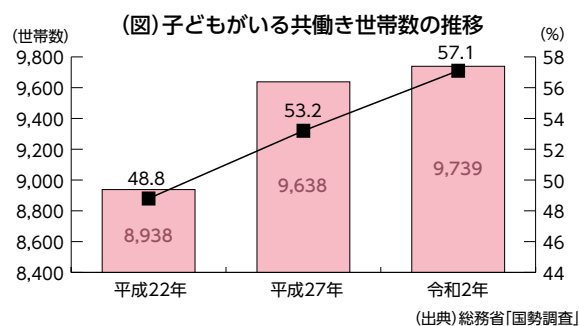
ライフスタイルの多様化や価値観の変化により、地域社会のつながりが希薄化しています。これに伴い、地域の大人たちによる「見守りの目」が少なくなり、子どもたちが地域の中で自由に、伸び伸びと遊べる機会も減少しつつあります。

子どもが求める 居場所とは

一方で、子どもたちが求める「居

あったらいいな／





場所」とはどのようなものなのでしょうか。市内の子どもたちにとどのような居場所があったら良いか聞いてみると、次のような回答がありました。

- みんなで楽しく遊べる・学べる
- いつでも遊べる
- 伸び伸びできる

これらの回答から、子どもたちにとって重要なことは、楽しい気持ちで、自由に活動できることだと分かります。子どもたちが「居心地が良い」と感じる事ができれば、場所だけに限らず、時間や人との関係性であっても「居場所」となり得るのです。

こんな居場所が





宿題に励む様子を見守る

カザグルマ

不登校児を支援する「フリースクール」、障がいのある子どものための「放課後等デイサービス」、子どもが自由に過ごす「放課後の居場所」を開設しています。
問い合わせ先＝カザグルマ(☎55-2703)



カザグルマ 代表
しみず ゆうじ
清水 祐治さん

いろいろな風が吹き込む場所

私自身が不登校を経験していることから、そうした子の居場所が必要だと思いフリースクールを始めたところ、発達支援が必要な子や障がいのある子も来るようになりました。さらには居場所を求めてなんとなく子どもが集まるようになったので、それぞれが心地良く過ごせる場所を目指して運営を行っています。ここでは、子ども同士だけでなく、隣の子ども食堂のおじちゃんや油絵を教えに来てくれる先生など、大人との関わりも生まれます。いろいろな人の話を聞いたり、聞いてもらったりすることによって、子どもの考え方が柔軟になり、自分を肯定的に捉える力が養われていけば良いなと思います。

第2章

子どもたちの笑顔のために

「子どもたちのために、自分にできることを」。市内には、そんな思いを胸に活動を始めた人たちがいます。本章では、さまざまな活動を通して、地域に笑顔の輪を広げている皆さんを紹介します。



三里塚あったかおにぎり隊
ボランティア
みつはし ひさよ
三橋 久代さん



三里塚あったかおにぎり隊

三里塚コミュニティセンターのイベントに合わせて出動。地域のボランティアなどがおにぎりなどの弁当を作って、子どもたちへ配布しています。
問い合わせ先＝三里塚コミュニティセンター(☎40-4880)

地域の子どもを見守れるように

夏休みなどの長期休暇で給食がなくなり、家でご飯を食べられていない子がいるというのを聞いて、おにぎりでも配れたらという思いで、立ち上げから参加しています。「おいしかった」と言ってもらえるのが励みになります。毎月顔を合わせていると子どもたちとの信頼関係が築けていけるので、まちで見かけた時にあいさつしたり、目をかけたりすることができます。子どもたちが安心して過ごせて、大人になっても子育てしたいと思える環境をつくっていききたいと思います。



「ありがとう」と受け取る子どもたち



順天堂大学
スポーツ健康科学部3年
しみず しゅんや
清水 俊弥さん

コーディネーション運動同好会

学生が小学校などを訪れ、子どもたちへの運動指導を行っています。

みんなのお兄ちゃんのような存在に

体を動かすことが好きで、その楽しさや喜びを子どもたちに知ってほしいと思い、入会しました。週に1回、豊住小学校の子どもたちとレクリエーションを通して交流しています。大学の授業で学んだことを生かして、学年に関係なく、みんなが楽しめるようなプログラムを考えています。教室に入ると「ねえねえ」と話しかけてくる子どもたち。先生とは違う「気軽に話せるお兄ちゃん」のように思ってもらえていると思います。みんなと一緒に体を動かすことの楽しさを知ってもらえたらうれしいです。



ジェスチャーゲームのお題は「美術館」



突然のお化け出現にびっくり

お母さんたちはお化けに変身



暗がりの廊下でドキドキ…



成田わくわくひろば

小学校区を単位として、地域のスタッフと子どもたちが、地域の特性を生かしたさまざまな体験活動を行っています。

問い合わせ先＝こども政策課(☎22-1270)

成田わくわくひろば
下総地区運営委員長
たまだ まなぶ
玉田 学さん

子ども同士の交流をもっと盛んに

下総地区の小学校が下総みどり学園に統合され、バス通学が始まった頃から、放課後に子どもたちが遊ぶ姿を見かけなくなりました。子どもたちが互いに積極的にコミュニケーションを取れる場が必要だと感じ、この活動を始めました。夏休みには毎年、学校や保護者の協力を得て、校舎

での肝試しや校庭での花火など、子どもたちが思い切り楽しめるイベントを企画しています。人と接するのが苦手だった子が楽しそうに参加し、今では友達を誘ってきてくれるまでに成長してくれたことに大きなやりがいを感じています。これからも地域と連携した活動を続けていきます。

子ども食堂ってこんなところ!



皆さんは子ども食堂にどんなイメージを持っていますか。子ども食堂は地域の人々が交流する、にぎやかで元気の集まる場所。たくさんの人と一緒に食べるご飯っておいしいんです。



子どもたちもお手伝い

子ども食堂ふれあいテラス

日時=第3土曜日 午前10時~午後3時

会場=本三里塚第二共同利用施設

参加費=小学生以下無料、中高生100円

問い合わせ先=小川^{おがわ}さん(☎090-8647-5530)



子ども食堂ふれあいテラス 代表
小川^{おがわ} 京子^{きょうこ}さん



みんなで囲む食卓が子どもと地域をつなぐ

民生委員として活動する中で、家でご飯を食べさせてもらっていない子がいるという話を聞き、調理師の資格を持っていたこともあり立ち上げました。初めは子どもが来てくれるか心配でしたが、PTAを通じた周知や子どもの口コミで広がり、今では毎回約30人が集まります。

ここでは、子どもたちも野菜の型抜きなどの調理を手伝います。流しそうめんを使う竹を持ってきてくれた人がいたら、のこぎりで切って器を作ることもあります。ただ食事を提供するだけの場所ではなく、家や学校ではできない、さまざまな体験を通して成長できる場所であってほしいと思っています。

活動をしていると、不登校や貧困など、不安に思っていることをぼろっとこぼしてくれるお母さんもいます。そうすると私たちから行政のサポートにつなげたり、一緒に解決策を探したりできる。「地域で見守る大人」の立場だからこそ踏み込める領域があります。子どもを地域ぐるみで育てていける、そういう居場所になっていると思います。

みんなで食べるご飯がおいしいです。
今日はカレーをおかわりしました!

自分でピザを盛り付けて
食べたのが楽しかったです☆

こども食堂からべえ



愛情の込めった一皿を



おかわりもできて
満腹満腹♪

日時＝第2・4土曜日 正午～午後2時
会場＝加良部5-5-5
参加費＝高校生以下無料
問い合わせ先＝涌井さん(☎090-9158-7018)



子ども食堂わんぱくごはん



栄養満点のレシピ



新町デイサービスセンター
玲光苑ホームページ

あったかいご飯、サイコー！

日時＝第3土曜日 午前11時～午後2時
会場＝新町デイサービスセンター玲光苑
参加費＝無料
問い合わせ先＝新町デイサービスセンター玲光苑(☎23-7158)



地域食堂風楽



風楽
ホームページ

野草ってこんなに
おいしいんだ！

有機野菜の優しい味わい

日時＝第1土曜日 午前11時～午後3時
会場＝佐野255
参加費＝高校生以下無料
問い合わせ先＝風楽(☎37-1960)



本城っ子くらぶ



わいわいとした雰囲気で

宿題やったら
みんなで食べよう！

日時＝月1回 午前9時～午後1時
会場＝本城共同利用施設
参加費＝小学生以下無料
問い合わせ先＝清水さん(☎090-8006-8695)



愛の実こども食堂



愛の実こども食堂
ホームページ

おいしいご飯に笑みがこぼれる

ボリューム満点でうれしい♡

日時＝第3火曜日 午後4時～6時(弁当の配布
などは第1金曜日)
会場＝土屋1801
参加費＝高校生以下無料
問い合わせ先＝金さん(☎090-6535-9118)



赤ちゃん食堂ちる



赤ちゃん和妈妈がゆったり過ごせる場所



Family Partner-
Chillホームページ

せんぶたべられたよ♪

日時と会場＝お問い合わせください
参加費＝1歳以下・大人無料、2～6歳100円
問い合わせ先＝Family Partner-Chill(☎070-1466-2525)





自然の中でたき火を体験

第3章

新たな一歩を踏み出そう

子どもの居場所づくりに携わってみたいけど、何から始めればいいかわからない…。
本章では、居場所の開設や継続のために必要なことについて紹介します。

居場所づくりは誰にでもできる

居場所づくりと聞くと、「大きな会場を借りなければ」「特別なスキルが必要では」と身構えてしまうかもしれません。実際は、公園や集会施設といった身近な会場を活用し、ボランティアの協力によって、居場所は成り立っています。放課後に友だちと一緒に宿題をしたり、大人と気軽にしゃべりできる場所だったり。そうした居場所づくりに必要なのは、子どもたちを見守りたい、支えたいという温かい気持ちです。

まずは活動を見学してみましょう

「子どもの居場所づくりに携わりたいけれど、何から始めればいいかわからない」。そんな時は、興味のある活動の見学に行ってみましょう。

自分の住んでいる地域で活動している団体などを知りたいと思ったら、こども政策課（☎22・1270）へ気軽に連絡してください。

新しく立ち上げたいと思ったら

まずは仲間を募ることから始めましょう。全てを一人で行うのは大変なこと。自分の思

いに共感してくれる友人や知人、地域の人たちと一緒に、次のような手順で進めましょう。
①目的を決める…地域の子どもの保護者のニーズを捉え、どんな居場所を提供したいかを考えましょう

②活動内容を考える…学習支援、食事・遊び場の提供など、内容を明確にしましょう

③対象・頻度を決める…参加者の年齢や開催スケジュールを決めます。継続していけるよう、無理のない計画を立てましょう

④会場を確保する…公共施設やレンタルスペースなどの利用を検討しましょう

⑤資金を確保する…補助金や寄付金、企業からの協賛金などを活用しましょう

⑥活動を周知する…チラシ・ポスターの配布やSNSを活用し、情報発信しましょう

資金面に不安を感じたら補助金の活用を

活動を始める際、特に不安を感じるのが資金面。会場使用料や備品の購入など、活動にはどうしても費用がかかります。

市では、子どもの居場所づくりに取り組む人を応援するため「こどもの居場所づくり支援補助金」を創設しました。子どもたちが安心して過ごせる居場所の開設や運営のために、ぜひ活用してください。

成田おむすびプレイパーク



日時＝第1・2土曜日・第2土曜日の翌日・
最終土・日曜日 午前10時～午後4時、
第3・4月曜日 午前10時～午後0時30分
会場＝赤坂公園(最終土・日曜日は大
袋319-1)
参加費＝無料
問い合わせ先＝☎050-3595-0631

成田おむすびプレイパーク 代表
かとう ともりの
加藤 友則さん

継続していくために

子どもが安心して行ける場所として大事なことは「継続して開催されること」「そこに行きたいと思えること」だと思います。プレーパークは、子どもから大人までが交わり、たき火や木登り、泥んこ遊びなどを通して、子どもが主体的に考え、冒険心を育み成長していく場所です。ここでは、その日の自然の様子を体感してほしいので、荒天時でない限り、雨の日でも風の日でも開催しています。

運営は、応援してくれる市民の方や企業からの寄付により成り立っています。また市の補助金は備品の購入や、広報・周知活動費などに充てています。立ち上げたいと思った時には、まずは見学に行ってみて体験してみるのが一番だと思います。始めは手探りかもしれませんが、どんな団体でも、相談すれば協力して力になってくれると思います。



補助金を活用して 継続的な運営を

こどもの居場所づくり支援補助金

対象＝市内で子ども食堂、学習支援、プレーパークを月2回(子ども食堂は月1回)以上開催する団体



市ホームページ

上限額

- 新規開設事業…施設の改修や備品購入など開設にかかった費用(年額50万円)
- 整備事業…施設の修繕や消耗品の購入にかかった費用の2分の1(年額10万円)
- 運営事業…食材料費や保険料など運営の継続にかかった費用(月額3万円)

問い合わせ先＝子ども政策課(☎22-1270)

居場所づくり助成金

対象＝市内で子ども食堂、子育て応援サロンなどを月1回以上開催する団体

上限額(助成は1団体につき1回まで)

- 開設準備費…2万5,000円
- 運営費…5,000円

問い合わせ先＝成田市社会福祉協議会(☎27-7755)

ふよう寺子屋

日時＝金曜日 午後4時30分～6時30分
会場＝芙蓉邸街共同利用施設
参加費＝無料
問い合わせ先＝☎090-9243-1804

ふよう寺子屋 代表
わたなべ なおゆき
渡邊 直行さん



自治会との連携で立ち上げがスムーズに

子どもが宿題などを持ち寄り、放課後の時間を過ごせる場所として開設しました。立ち上げ時には、自治会の会議で思いを伝え理解を得られたことで、会場の使用や補助を受けることができました。学校の授業と同様に子どもたちがタブレットを使えたらと思い、市にも相談してWi-Fi環境も整備しました。また、市の補助金は教材費などに活用しています。自治会の協力で、子どもたちのためのスポーツイベントなども開催することができていて、子どもを中心に地域全体の交流の輪が広がっていると感じます。



コミュニケーションを取りながら

居場所が育む子どもの心

子どもにはポジティブでいてほしい

10代の死因の1位は自殺です。これは本当に深刻な問題で、子どもと接していると自己肯定感の低さを感じます。例えば「地球を一周したい」と思うのは、それが実現できるかどうかにかかわらず、素晴らしいことだと思うのですが、最近では、そういった大きな夢を語る子は少なくなりました。子どもには「自分はだめだと思わないで」と伝えたいです。そうしたメッセージを伝えるためには、悩みをぼろっとこぼせるような信頼のおける大人が周囲にいるという環境が大切です。先生でも親でもない立場の人だからこそ話せることや支えてあげられる面もあるのではないのでしょうか。

時代が変わっても必要なつながり

昔は地域に「みんなの親父」みたいな存在の大人が何人かいて、子どもたちを見守ってくれていました。「みんなで子育てする」という安心感のある関係性が現代にも必要だと思います。学校では「知らない人と話さないように」と教わりますが、地域の交流の場で知り合っていれば、子どもの方から声を掛けてくれることもあります。地域の子どもの成長をみんなで見守れる環境が理想です。人のプライベートに踏み込むことが懸念される世の中ですが、こういった関係性は時代が変

わっても残していくべきだと思っています。

成田の魅力は「全部」があること

成田は田んぼ、畑、山といった自然に囲まれ、お寺や神社、古墳、お祭りなどの歴史的な資産も豊富です。そして、成田空港という産業の中心地もあります。こうした環境は、自由度の高いさまざまな経験につながります。成田わくわくひろばでは畑でサツマイモを育てて収穫したり、古墳やパワースポット巡りをして地域の歴史を深く知ったり、学校や家ではできないことにもチャレンジできます。子どもたちはあらゆる挑戦をすることで、ポジティブな気持ちを育むことができます。

子どもは地域の宝

このまちのさまざまな居場所を経験したことは、子どもたちの心に残っていきます。大人になった時にふと思いついて、今度は自分が成田で子育てしたいと思ってもらえたらいいなと思います。

「ふらっと行って、なんでも話ができる」ような、子どもの安心できる居場所が増えていくと良いですね。難しいことはありません。何歳からでも、一人でもできることがあると思います。「地域の宝物である子どもたちを守っていこう」。そうした気持ちで地域全体に広がっていったらうれしいです。



地域の神社を巡るイベントを開催

成田わくわくひろば実施協議会 会長

ほりうち たかし
堀内 孝司さん

会社を経営する傍ら、成田わくわくひろば玉造地区の運営委員として子どもの居場所づくりに尽力しているほか、玉造地区青少年健全育成協議会のメンバーとしても活動。子どもが気軽に立ち寄り相談などができる「なんなんデント」や歴史探訪イベントなどを開催している。





今回の特集では、さまざまな居場所で子どもたちの笑顔に出会いました。取材前は、子どもが大勢集まっているイメージが持てず「寂しい写真ばかりになってしまったら…」と考えていました。しかし、実際に足を運んでみると、どの会場も楽しい雰囲気にあふれたのが、子どもたちの物おじしない様子の持つカメラに興味津々で「撮ってみたい！」

特集の終わりに

と言う子や、お気に入りのシールをプレゼントしてくれる子もいて、こうした子どもたちの明るさや無邪気さも、支えてくれている人たちの影響によるのだろうと感じました。

地域ぐるみで子どもを育てたいという意識は、多くの人の心に根付いていると思います。小さな一歩からでも始まる子どもとのつながり。この特集が、居場所づくりに踏み出そうとする誰かの背中を押すことを祈っています。

